

つながる図書館～本を通して新たなコミュニケーションの場を提供～

団体名●つながる図書館プロジェクト／代表者名●山根悠真（人間科学部こども学科3年）

はじめに

当団体は、学生が主体的に企画・運営することで図書館の利用者増につなげるとともに、メンバー自身が主体性をもって、社会に役立つ人間性を身に付けたいという思いから結成された。本学の図書館では、「知る・深める・つながる」のキャッチフレーズを掲げており、当団体は、その中の「つながる」をテーマに、本を通して人と人とのコミュニケーションの場を提供することを目的として活動をしてきた。

今年度の活動内容

| 日時 | 内容 |
|--------------------|---|
| 5/7(火)～6/14(金) | 図書館キャラクター選手権2019(新企画) |
| 6/8(土) | 稲友会総会同時企画古本市 |
| 7/1(月)～7/12(金) | 図書館川柳企画 |
| 11/2(土) 11/3(日) | 流星祭企画(古本市・図書館 de ビンゴ・プラ板体験(新企画)・移動動物園) |
| 11/11(月)～11/14(木) | 第21回図書館総合展 ポスターセッション出展 会場：パシフィコ横浜 |
| 12/9(月)～12/25(水) | 館内クリスマス装飾 |
| 1/6(月)～1/17(金) | 新春おみくじ企画 |
| 1/8(水)～1/10(金) | 新春古本市(新企画) |
| 1/14(火) | 星稜ビブリオバトル |

新企画①「図書館キャラクター選手権2019」

5月に行った「図書館キャラクター選手権2019」は、図書館にもっと親しみをもってもらいたいという思いから企画。多数の応募作品から投票によって「よみタイくん」が選ばれた。

新企画②「プラ板体験」(流星祭企画内)

流星祭の館内企画の1つとして実施。多くの子どもたちが参加してくれた。

新企画③「新春古本市」

11月の図書館総合展での他団体の活動を参考に企画。本の表紙を隠してメンバーが書いたPOPを見て購入してもらう「文庫 X」方式を採用(写真)。企画の周知に課題が残ったが、次年度につながる企画となった。

写真：文庫 X 方式による古本市



なお、3度の古本市の売上げ(17900円)は、日本赤十字社を通じ、被災地へ全額寄付した。

成果、結果の考察

2019年度の活動では、前年度の反省を活かし、図書館職員と連携しつつ、見通しを持ってイベントを企画・運営することができたように思う。昨年度は、図書館総合展をはじめとする学外の方々との交流から得られた学びを当団体の活動に活かすことができず、例年行っている活動を企画・運営するだけとなっていたが、今年度は学外の方々との交流を通してメンバーそれぞれが学んだことを共有し、それらを参考に新企画を行うなど、プロジェクトをより活性化することができた。また、流星祭での来館者数や古本市での売上げも前年比増となり、活動の功績が目に見えるようになった。

今後の課題、展望

今年度は新企画を多く取り入れ、例年以上に活動内容の濃い1年となった。しかし、様々な活動において、参加する人が決まってくる点、定期ミーティングにおいては、あまり意見が出ず議論が進まないなど、メンバーの積極性に課題がみられた。1人1人がプロジェクトの一員であることを再確認し、責任感を持って活動に参加するようにしていきたい。そのためにも、各活動において中核となる「リーダー」の選定など、1人1人が責任と自覚を持って活動に参加できるような工夫をしていきたい。